

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月24日

【評価実施概要】

事業所番号	895200012		
法人名	医療法人社団 三位会		
事業所名	グループホーム yahoo		
所在地	神栖市高浜字西野流作2494-12 (電話) 0299-93-8600		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	茨城県水戸市千波町1918茨城県総合福祉会館2階		
訪問調査日	平成19年10月24日	評価確定日	平成19年11月9日

【情報提供票より】 (平成19年4月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年5月27日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤14人, 非常勤3人, 常勤換算5.13//3.16人	

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,300 円		

(4) 利用者の概要 (4月10日現在)

利用者人数	15 名	男性	6 名	女性	9 名
要介護1	2	要介護2	3		
要介護3	4	要介護4	5		
要介護5	1	要支援2			
年齢	平均 80.4 歳	最低	74 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	(医) 三位会 人見医院 (社) 白十字会 白十字総合病院
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームの経営者は、先代から地域の開業医として地域医療に貢献している。
地域とのかかわりを続ける中で、高齢化社会の到来に地域に密着したグループホームの必要性を感じ、ホームの設立に至っている。
認知症を発症し、家庭生活が困難になった方でも、長く住み慣れた地域で、その方らしく暮らしていただける支援こそがホームの役割と考え、経営者・職員一丸となって、質の確保・向上に努力しているホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 今回が初回の外部評価であり、該当なし。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 外部評価の受審は初めてであるが、サービス評価の意義や目的を全職員に伝えるとともに、全員で自己評価に取り組んでいる。 運営者や職員は外部評価の結果をサービス改善に活かせるよう、前向きに取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議を開催するまでには至っておらず、開催に向けた委員の選考や会議で出た意見をホームの運営に反映することが望まれる。 市町村の担当者や連絡事項の確認や相談等を行っている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 玄関ホールに意見や不満等を自由に伝えられるよう、用紙等を設置している。 家族との信頼関係の構築に努力しそれを運営に反映させ、質の向上を目指している。 金銭納付状況の報告や行事等の写真を送付するとともに、家族の面会時に日頃の様子を伝えている。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 納涼祭等ホームの行事に地域の人を招待するほか、地域行事にも積極的に参加し、交流している。 また、畑や園芸作業が得意な地域の人と日常的に交流している。
重点項目④	

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、地域の人々と交流する機会を設け、地域の一員として暮らせるよう、努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員の採用時に理念を伝えるとともに、全体会議や申し送り等に確認している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	納涼祭等のホーム行事に地域の人を招待するほか、地域の行事にも積極的に参加し、交流している。 また、畑や園芸作業が得意な地域の人と、日常的に交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を全職員に伝えるとともに、全員で自己評価に取り組んでいる。 運営者や職員は外部評価をサービスの改善に活かせるよう、前向きに取り組んでいる。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を開催するまでには至っていない。	○	運営推進会議の開催に向け、委員への働きかけや会議で出た意見をホームの運営に反映することが望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の担当者と連絡事項の確認や相談等を積極的に行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	金銭出納状況の報告や行事等の写真を定期的に送付するとともに、家族の面会時にも日頃の生活の様子を伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関ホールに意見箱を設置するなど、意見が言いやすい雰囲気を作っている。 家族等の意見は真摯に受け止め、改善につなげるよう、努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	グループホームに適した職員を慎重に見極め、職員を採用している。 利用者が馴染みの職員により支援を受けられるよう、配慮している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会議時に内部研修を取り入れるとともに、外部の研修も積極的に受講している。	○	研修受講後に、研修の内容等について全ての職員に周知及び共有できる仕組みづくりを提案する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流するまでには至っていない。	○	茨城県グループホーム連絡協議会等に加盟し、研修の場に参加するなど、他の事業者との交流や意見交換ができる機会を設ける取り組みが望まれる。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族の意向を十分に確認し、無理なく生活に入っていけるよう、他の利用者の反応にも配慮しながら、介護計画を作成している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から餅つきやおはぎ作り、魚のさばき方等の料理を教えてもらうなど、利用者が安全に自信をもって生活できるよう、支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	馴染みの家具を持ち込み、生活習慣の継続を図ったり、利用者や家族からも希望等を把握できるよう、取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族と十分話し合い、職員、医師、看護師等と連携をとり、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、利用者や家族の意向を聞いて作成するとともに、利用者の状態に変化があった時は、介護計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の体調に変化が見られた時に適切に対応できるよう、看護師の資格を持つ職員を配置している。 利用者と家族がふれあう機会を多く持つよう、家族の送迎のサービスを行っている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の意向を確認し、納得を得られた医療機関に受診している。 設置法人の運営する医療機関に助言や相談できる体制となっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の心身の状態に変化があったときは、速やかに援助内容の追加や変更等について職員間で話し合うとともに、医師や看護師と連携している。	○	重度化や終末期のあり方についてのマニュアルや指針を作成するとともに、職員全員で方針を共有し、重要事項説明書に明文化して入居者や家族等に周知することを提案する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の自尊心を傷つけないよう、トイレ誘導等の言葉かけに配慮している。 記録等は保管場所を決め、個人情報の漏洩に配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者が自分のペースで生活できるよう、見守りにより支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立は一週間毎に利用者と相談して作成している。 また、利用者一人ひとりの力に応じて食事の準備や後片付け等の手伝いを声かけ等により働きかけている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎回、違った香りの温泉入浴剤を入れるなど、利用者が入浴を楽しめるよう、工夫している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりのできる事を把握するとともに、利用者のできる事を生活の中で発揮することができるよう、場面づくりをしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望を聞いて外食をしたり、散歩や買物に出かけるなどの支援をしている。 また、天気の良い日は、庭でお茶を楽しんでいる。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は入居者の安全に配慮して鍵をかけているが、庭には自由に出ることが可能であり、共有スペースはゆったりとして開放感がある。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災マニュアルを作成し、年に3回防災訓練、避難訓練、緊急連絡訓練を行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を毎日記録し、把握しているが、栄養バランス等について、栄養士等の専門家にアドバイスを受けるまでには至っていない。	○	定期的に栄養士等に利用者の栄養バランスについて、助言を受ける仕組みが望まれる。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	2ユニットのホームは開放感があり、利用者が自由に交流できる構造となっている。また、庭には季節を感じられる木々や草花を植えるなど、利用者が居心地よく過ごせるよう、工夫している。	○	BGMの音量を適切に調整する等の配慮が望まれる。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を持ち込み、生活習慣の継続を実現するなど、本人の望む暮らし方を支援している。		

※  は、重点項目。